

社会保険労務士からの三方一両得だより

令和6年8月20日 第179号

かき氷を食べに行ってきました

毎日暑くて大変ですね。まあ、冷夏になって米が凶作になるよりはましと思うことにしましょうか。いつもは興味が無いのですが、さすがにかき氷を食べたくなりました。かき氷と言えば、日光の天然氷を売りにしているお店が沢山ありますが、以前から気になっていることがあります。それは、「本当に天然氷を使っているのか？」ということです。自然の寒さまかせの天然氷、そんなに大量にありますか？というわけで間違いのない氷室直営のお店に行ってきました。



この扉の奥に受け付けがあります。

訪れたのは今市の街中にある松月氷室の直営かき氷屋さん。開店の30分前に到着するも、すでに沢山の客さんがいて、整理券の時間は2時間後でした。先にお昼を済ますために入った道の駅そばの「コスモス」という洋食屋さんは、全てがおいしくてめつけもんでした。

携帯電話の自動通話で呼び出され、いざかき氷

と対面です。華やかなデコレーションは無く、シンプルなかき氷です。食べてみると、口どけが良くおいしいです。評判どおり頭が痛くなることもありません。確かにおいしいですが、3時間待つて(着席後もかなり待ちます)でも食べたいかと言われると、NO!。市販のかき氷アイスで十分です。並んだり待ったりすることが、本当に苦手なんですよね。



マンゴーと白桃をチョイス。



葉っぱを切って身軽にします。

小玉すいか、カボチャは大豊作のうちを終了しました。トマトは暑さのせいか実がなりません。幹は枯れていませんで、涼しくなったら実がなることを期待して手入れを継続していただきます。

我が家の畑

家庭菜園仲間にはいただいたゴーヤの苗はすくすく育ち、山のよう実がなっています。庭のきゅうりは水をたつぷりやっっているお陰か、今でも元気に実を付けています。ナス、ピーマンも順調ですが、お盆前にももう少し水を遣ることもできたなら、なお良かったのですが。

仕事より余暇を重視する割合が年々増加

◆「仕事より余暇を重視」する傾向

日本生産性本部が「レジャー白書 2024」（速報版）を公表しました。これは、余暇活動に関する個人の意識や参加実態に関するアンケート調査の結果をまとめたものです。この調査により、仕事よりも余暇を重視する人々の割合が年々増加していることが明らかになりました。特に「仕事よりも余暇の中に生きがいを求める」と回答した人の割合が2021年以降増加しており、2023年には回答者の34.1%がこのように答えています。

この傾向は、働き方やライフスタイルの変化を反映しています。コロナ禍を経て、多くの人々が自分の時間を大切にし、家族や友人との時間、趣味やリラクゼーションの時間をより重視するようになったといえるでしょう。

◆企業に求められる対応

企業には、上記のような働く人の意識の変化に対応することが求められます。すなわち、従業員のワークライフバランスを尊重し、柔軟な働き方を推進することで、従業員の満足度や生産性の向上が期待できます。有給休暇を取得しやすい雰囲気作りも必要でしょう。

賃金不払が疑われる事業場に対する監督指導結果(令和5年)より

労働基準監督署が賃金の支払いについて指導した事例が発表されました。以下にその一部を紹介します。



飲食業

- ・ 労働時間は、勤怠システムにより管理を行っているが、当該システムに搭載された端数処理機能を用いて、日ごとの始業・終業時刻のうち15分未満は切り捨て、休憩時間のうち15分未満は15分に切り上げる処理が行われていた。
- ・ 着用が義務付けられている制服への着替えの時間を、労働時間としていなかった。

この会社は過重労働により労災請求がされたため調査に入った、という特殊事情はありますが、かなり厳しい指導をされていることが分かります。昔からのざっくりとした労務管理が通用しない時代になってきた、と言えるかもしれません。